

エンジニアパーク

Engineer Ring Park

私は鉄の町室蘭市(今は病院の町?)で生まれ育ち、地元の室蘭工業大学を卒業しました。大学時代は軽音サークル部で、バンド活動や酒に明け暮れる毎日、学業はかなり疎かでした…。ギター担当でしたが、サークルOBからは会社面接ではドラムは全体をまとめる役割なので印象はまだ良いが、ギターは軽薄なイメージだ!などと言われていたので、面接では素性を明かすこと無く、何とか現在の会社に就職することができました。就職してからは直ぐに素性がばれましたが(笑)

そんな私も東京本社で河川関係の設計に携わり十数年、その後、現在の札幌支店に十年在籍し、河川だけではなく多分野の業務に携わっております。札幌赴任当時、支店では次々と技術士に合格していました。これはまずい!とばかり一念発起し、人生でこんなことは無いぐらいに勉強しました。5年前、3度目の正直で合格しました。今思うと、試験問題が予想していたものとかかなり違って頭の中が真っ白になりかけましたが、あきらめずにこれまでの経験や思いを答案用紙にぶつけるんだ!と気持ちを切り替えることができて良かったなとしみじみ思います。技術士になってから1年後、東日本大震災がありました。会社あげての東北支店支援体制で、北海道の業務を行いながら東北に通う日々でした。防潮堤の設計でしたが、関連事業との調整難航や設計条件がなかなか定まらないなど、正直しんどかったですが、技術士になった時の気持ちを胸に秘め何とかやり遂げました。その後も東北関連の仕事にも携わっております。

今後も北海道のみならず本州でも技術士として活躍したいと思っています。

小野寺 則人(おのでら のりひと)

●建設部門
(河川砂防及び海岸・海洋)

勤務先

サンコーコンサルタント株式会社
技術部



→次号は、源田和隆さん(農業部門)

釧路を舞台とした「起終点駅ターミナル」という映画が公開されました。駅を南に進むと「出世坂」があります。映画の原作者は、「出世坂」の上の裁判所に勤務した経験があり、文字通り「出世坂」を一気に駆け上がり、直木賞作家になりました。残念ながら、映画の主演は「技術士」ではなく、裁判所の「業界関係者」である「弁護士」です。仕事を通して知り合った女性とのロマンスが描かれています。今後、「技術士」も、映画やドラマの主演を張るぐらいの、プライベートでの輝きを持ってほしいと願っています。

私は、大学の土木工学科を卒業し、故郷の市役所に勤務し、道路や下水道の部署に配属され、多くの坂と格闘しました。坂道では、道路の線形、擁壁、ロードヒーティング、急勾配での管渠の布設等にずいぶん苦勞しました。夜間や早朝に呼び出され、坂道に融雪剤を散布したことも何度かあります。多くの技術者たちの思いが詰まっている、それが坂道です。費用が嵩み、気苦勞も多く、平坦な地形に住む人を羨ましく思っていた時期もありました。しかし、今では、坂道は、都市景観に大きく貢献し、まちの風格を高めている重要な要素だと思うようになりました。国の内外を問わず、坂道のある「旧市街」は、どこも魅力に富んで、歩くのが楽しくなります。

「出世坂」の近くには「休み坂」という名称の勾配の緩い坂があります。技術士会の皆様には「出世坂」が相応しいかと思いますが、今の私には、「休み坂」をゆっくり歩くことに、より魅力を感じています。ぜひ二つの坂を歩き比べてみてはいかがでしょうか。

及川 泰輔(おいかわ やすすけ)

●建設部門(道路)
●上下水道部門(下水道)
●総合技術監理部門

勤務先

釧路市役所



→次号は、鈴木秀俊さん(建設部門)